

HP VMware ESXi と vSphere 5.x、6.x およ びアップデートお使いになる前に

摘要

このガイドは、HP VMware ESXi と vSphere のセットアップ情報の提供を目的としています。



ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HP から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーション、および商業用製品の技術データ（Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items）は、ベンダー標準の商業用使用許諾のもとで米国政府に使用許諾が付与されます。

Microsoft、および Windows は、Microsoft Corporation の商標です。

Intel およびインテルはインテルコーポレーションまたはその子会社のアメリカ合衆国およびその他の国における商標または登録商標です。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

目次

1 操作に関するヒント.....	4
2 概要.....	5
3 構成.....	8
4 インストール.....	12
ソフトウェアイメージのその場でのインストール手順	12
iLO 2、iLO 3、または iLO 4 を使用したソフトウェアイメージのリモートでのインストール手 順.....	12
iLO 2 を使用したソフトウェアイメージのリモートでのインストール手順.....	12
iLO 3 および iLO 4 を使用したソフトウェアイメージのリモートでのインストール手順.....	13
5 Standalone ライセンスの有効化.....	15
6 完全ライセンスへのアップグレード.....	16
7 VMware ESXi と vSphere 5.X および 6.X の更新.....	17
8 システム障害からの復旧.....	18

1 操作に関するヒント

HP の Web サイト上の文書への移動

- 特定のサーバードキュメントを表示するには、このガイドに記載された URL に移動した後、何度か選択を行わなければならない場合があります。
- 技術文書、セルフヘルプリソース、ライブチャットアシスタンス、IT エキスパートのコミュニティフォーラム、テクニカルナレッジベース、リモート監視および診断ツールにオンラインアクセスするには、<http://www.hp.com/jp/support> に移動してください。
- 特定の技術資料の最新バージョンを入手するには、HP の Web サイト <http://www.hp.com/go/vmware/proliant-docs> を参照してください。

2 概要

HP VMware ESXi と vSphere 5.X、6.X およびアップデートをダウンロードしていただきありがとうございます。HP は、VMware ESXi と vSphere をシームレスに統合し、アクティブな HP ProLiant 管理と統合ライフサイクル管理を可能にすることで、お客様が一貫した信頼性のある方法で ProLiant サーバーを運用できるようにします。詳しくは、HP の Web サイト <http://www.hp.com/jp/vmware> を参照してください。

HP CIM (Common Information Module) プロバイダーは、ハードウェア監視データを予防的に洗い出し、サーバーの状態に関する可能な最新情報を提供します。HP CIM プロバイダーおよび VMware ESXi と vSphere を利用することで、HP SIM (HP Systems Insight Manager) を使用したアクティブなハードウェア管理が可能になります。

VMware ESXi と vSphere の更新は、標準の VMware アップデートツールを使用して行います。この統合ハイパーバイザーのインストールでは、リダンダントイメージを使用してパーティションが分割されるため、アップグレードや復旧のプロセスが強固なものになります。

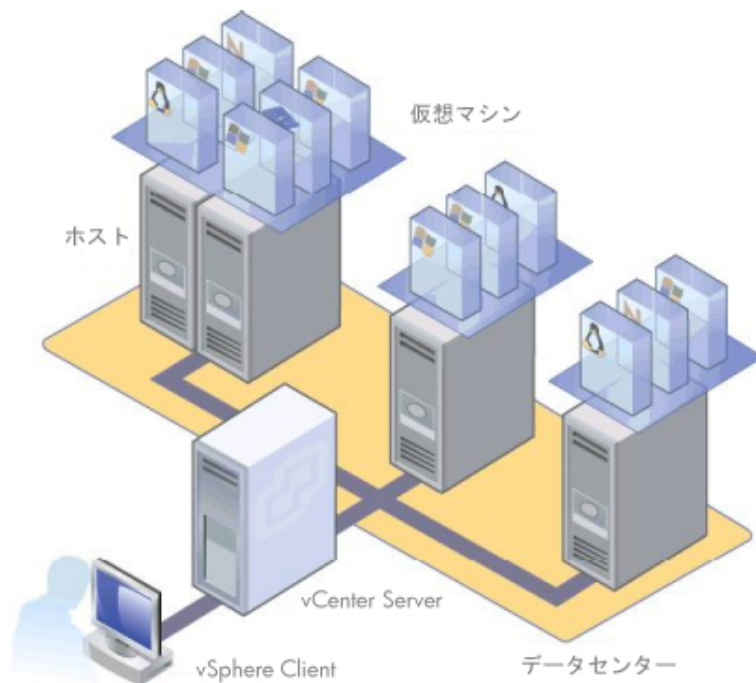
この『HP VMware ESXi と vSphere 5.X、6.X およびアップデートお使いになる前に』は、ESXi と vSphere 5.X、6.X およびアップデート Standalone Edition を対象に、または HP VMware vSphere 完全ライセンス版製品の一部として、提供されています。

ESXi と vSphere Standalone Edition は、仮想化を利用する単独サーバーへのインストールに最適であり、VMware 社が無償で提供する vSphere Client 管理コンソールを使用して管理します。HP のソフトウェアテクニカルサポートとアップデートサービスは、オプションであり、サポートパックとして購入できます。

インストール用 ISO イメージには、HP の Web サイト <http://h18004.www1.hp.com/products/servers/software/vmware/esxi-image.html> (英語) にある Standalone Edition の試用ライセンスが含まれます。Standalone Edition の永続ライセンスを取得するには、VMware 社の Web サイト <https://www.vmware.com/tryvmware/> にアクセスして登録を行い、シリアル番号ライセンスを入手してください。

また、HP VMware ESXi と vSphere Standalone Edition は、Essentials、Essentials Plus、Standard、Enterprise、Enterprise Plus Edition など、VMware vSphere の完全ライセンス版製品のいずれかにアップグレードできます。HP VMware ESXi と vSphere Standalone Edition および他のライセンス版製品に提供されているサポートについて詳しくは、HP の Web サイト <http://h50146.www5.hp.com/products/servers/proliant/solution/vmware/> を参照してください。

ライセンスの配布と Enterprise Edition の権利付与証明の有効化について詳しくは、「[Standalone ライセンスの有効化](#)」(15 ページ) および「[完全ライセンスへのアップグレード](#)」(16 ページ) を参照してください。



VMware vSphere には、次のコンポーネントがあります。

- **仮想マシン** – Microsoft® Windows®, GNU/Linux などのオペレーティングシステムを実行できるソフトウェアベースのコンピューターです。オペレーティングシステムが物理マシンにインストールされている場合と同じように動作をします。
- **ホスト** – ESXi と vSphere などのプラットフォーム仮想化ソフトウェアを実行する物理マシンです。ホストは、1つ以上の仮想マシンに、プロセッサ、メモリ、ストレージ、およびネットワークリソースを提供します。
- **vCenter Server** – 仮想インフラストラクチャを継続的に監視し、システム管理タスクを自動化し、リモート管理セッションを集中化できます。また、データセンター全体を対象に各ホストのリソースと動作を調整することで、仮想マシンを効率的に配分し、ハードウェアの停止からデータセンターを保護します。
- **vSphere Client** – ホストおよび仮想マシンとのやり取りの中心になるインターフェイスです。vSphere Client は、ホストに直接接続して単一のホストを管理することも、vCenter Server マシンに接続して複数のホストを管理することもできます。

仮想化インフラストラクチャを完成するために必要な他の HP コンポーネント

- **管理ネットワーク** – サーバーの管理者は、このネットワークを使用することで汎用的な通信ネットワークに依存することなく、個々の物理サーバーを管理できます。このような専用ネットワークが用意されるため、ネットワークで障害が発生しても、ハードウェアへの高信頼接続が確保されます。
- **HP OneView for VMware vCenter Server** – HP OneView for VMware vCenter Server は、vCenter コンソールからの総合的な監視、リモート制御、および消費電力の最適化を直接実現する強力な HP サーバーホスト管理機能を仮想化管理者に提供します。詳しくは、HP の Web サイト <http://www.hp.com/go/ovvcenter> (英語) を参照してください。
- **仮想マシン通信ネットワーク** – このネットワークは、従来の汎用通信ネットワーク上に構築されます。仮想マシン間のトラフィックは、通信する仮想マシンが別々のサーバー上にある場合、物理サーバー間のトラフィックと同じように汎用ネットワークを通じて中継されます。同じ物理サーバー上の仮想マシン間の通信は、サーバー内の仮想スイッチによって処理されます。
- **HP ストレージネットワーク** – 仮想マシンは、このネットワークを使用して、物理サーバーと同じようにストレージエリアネットワーク (SAN) デバイスにアクセスできます。スト

レージネットワークが利用する通信媒体は、ファイバーチャネルかイーサネットです。HPでは、HP StorageWorks SAN ソリューションの使用をおすすめしています。

- **仮想 SAN アプライアンス** – HP P4000 Virtual SAN Appliance Software (VSA) は、個別の外付共有ストレージデバイスを必要とせずに仮想サーバー高可用性ソリューションを実装する別の方法を提供します。詳しくは、HP の Web サイト <http://www.hp.com/go/vsa> (英語) を参照してください。

3 構成

HP の Web サイト <http://vibsdepot.hp.com>（英語）の『HP ProLiant Server and Option firmware and driver support recipe』に記載されている ProLiant ファームウェアを使用することをおすすめします。サーバーファームウェアについて詳しくは、HP の Web サイト <http://www.hp.com/go/server/firmware/updates>（英語）で入手できるサーバーのドキュメントを参照してください。HP の Web サイト <http://h18004.www1.hp.com/products/servers/software/vmware/esxi-image.html>（英語）で入手できる HP カスタムイメージを使用することをおすすめします。

注記: RBSU については、『ROM ベースセットアップユーティリティユーザーガイド』を参照してください。

VMware ESXi と vSphere 5.X、6.X は、次のインストール先のみをサポートしています。

- HP がサポートしている任意のハードディスクドライブ
- SD（Secure Digital）メモ리카ード
- フラッシュメディア（USB フラッシュドライブ）

注記: ESXi と vSphere が常駐するフラッシュデバイスは、他のデータを格納するために使用しないでください。

サポートされるフラッシュデバイスについて詳しくは、HP の Web サイト <http://www.hp.com/go/VMware/esxi>（英語）を参照してください。

VMware ESXi と vSphere を使用してサーバーを構成するには、以下の手順に従ってください。

1. HP の Web サイト <http://h18004.www1.hp.com/products/servers/software/vmware/esxi-image.html>（英語）または VMware 社の Web サイト <https://www.vmware.com/tryvmware/?p=esxi> からインストール用 ISO イメージをダウンロードします。

注記: 一部の ProLiant サーバーでは、HP カスタムイメージを使用する必要があります。このカスタムイメージに、インストールに必要なネットワークドライバーとストレージドライバーが含まれるためです。上記については、HP の Web サイト <http://h18004.www1.hp.com/products/servers/vmware/supportmatrix/hpvmware.html>（英語）の HP OS サポートマトリックスに記載されています。

2. インストール用 ISO イメージを CD に焼くか、HP iLO 2、iLO 3、または iLO 4 の仮想メディア機能を使ってアクセスできる位置に移動します。

注記: ISO イメージを焼いた CD から起動できます。サーバーを起動して、HP VMware ESXi と vSphere 製品をハードディスクドライブまたはフラッシュメディア（USB フラッシュドライブまたは SD カード）にインストールしてください。サーバーの内部ポートにフラッシュメディアをインストールする必要があります。

3. サーバーハードウェアをセットアップして、必要な場合は、サーバーをネットワークに接続します。
4. フラッシュメディア（USB フラッシュドライブまたは SD カード）にインストールする場合は、フラッシュメディアをサーバーの内部ポートに挿入する必要があります。

内部フラッシュメディア（USB フラッシュドライブまたは SD カード）ポートにアクセスする手順については、サーバーのドキュメントを参照してください。

ハードウェア要件については、サーバーのドキュメントを参照してください。

5. 次のいずれかの方法で、サーバーのコンソールにアクセスします。
 - その場で – お手元のキーボードおよびモニターを使用します。

- リモートで – Web ブラウザーを使用して、ネットワーククライアントからリモートで iLO 2、iLO 3、または iLO 4 の統合リモートコンソールを使用します。
HP ProLiant ML および DL サーバーの場合は、リモートからセットアップするには別売りの HP iLO 2、iLO 3、または iLO 4 の Advanced Pack が必要です。BL サーバーには、リモートグラフィック機能が内蔵されています。

注記: サーバーの起動後、セットアップモードに入るためのプロンプトが表示されたら正しいファンクションキーを押す必要があります。このモードで、ブート順序の構成、ハードウェア仮想化の構成、iLO 2、iLO 3、および iLO 4 と Smart アレイコントローラーの構成を行います。以降で説明する手順とプロンプトについてよく理解しておいてください。起動プロセスでは、各プロンプトは数秒間しか表示されません。ROM ベースセットアップユーティリティ (RBSU) を開くには、以下の手順に従ってください。

- a. サーバーを起動します。
- b. Gen8 の場合、**[F9]** キーを押します。
- c. Gen9 の場合、以下の手順に従ってください。
 - 1) **[F9]** キーを押します。
 - 2) スクロールして [システム構成] を選択し、**[Enter]** キーを押します。
 - 3) スクロールして [BIOS/プラットフォーム構成 (RBSU)] を選択し、**[Enter]** キーを押します。

6. フラッシュメディア (USB フラッシュドライブまたは SD カード) にインストールする場合は、ハードディスクドライブより先に起動するフラッシュデバイスを構成します。デフォルトでは、フラッシュメディアはハードディスクドライブより先に起動するように構成されています。

- a. RBSU が開いていない場合は、**[RBSU]** を開きます。
- b.
 - 1) Gen8 以前の場合は、下方向にスクロールして [標準ブート順序 (IPL)] を選択し、**[Enter]** キーを押します。
 - 2) Gen9 の場合は、ブート順序の画面に移動し、スクロールして [ブートオプション] を選択し、**[Enter]** キーを押します。
 - **[UEFI モード]** で起動した場合は、スクロールして **[UEFI ブート順序]** を選択します。
 - **[レガシ BIOS モード]** で起動した場合は、スクロールして **[レガシ BIOS ブート順序]** を選択します。
- c. ブート順序を変更するには、移動するデバイスを選択して **[Enter]** キーを押します。デバイスのブート順序を変更するためのメニューが表示されます。
- d. フラッシュメディアがハードディスクドライブより先に起動するように設定されていることを確認します。

7. [UEFI 最適化ブート] を [有効] に設定します。これはデフォルトで有効になっています。

- a. RBSU が開いていない場合は、RBSU を開きます。
- b. 下方向にスクロールして [ブートオプション] を選択し、**[Enter]** キーを押します。
- c. 下方向にスクロールして **[UEFI 最適化ブート]** を選択し、**[Enter]** キーを押します。
- d. 次の画面で、**[有効]** を選択し、**[Enter]** キーを押します。
- e. 構成変更を保存して終了します。サーバーが再起動します。

8. CPU の仮想化を有効にします。

CPU 固有の仮想化機能を使用する場合は、**[インテル® バーチャライゼーションテクノロジー]** または **[AMD® Virtualization]** を選択できます。Windows® 64 ビットオペレーティングシステム、および Linux など、64 ビットのすべてのゲストオペレーティングシステムのサポートには、この手順を実行する必要があります。

- a. RBSU が開いていない場合は、RBSU を開きます。
 - b. Gen8 の場合、以下の手順に従ってください。
 - 1) 下方向にスクロールして **[プロセッサオプション]** を選択し、**[Enter]** キーを押します。
 - 2) 下方向にスクロールしてサポートされるプロセッサ（[インテル® バーチャライゼーションテクノロジー] または [AMD® Virtualization]）を選択し、**Enter** キーを押します。
 Gen9 の場合、以下の手順に従ってください。
 - 1) スクロールして **[システムオプション]** を選択し、**[Enter]** キーを押します。
 - 2) スクロールして **[仮想化オプション]** を選択し、**[Enter]** キーを押します。
 - 3) スクロールして **[バーチャライゼーションテクノロジー]** を選択し、**[Enter]** キーを押します。
 - c. 次の画面で、**[有効]** を選択し、**[Enter]** キーを押します。
 - d. 構成変更を保存して終了します。サーバーが再起動します。
9. VMware による USB 3.0 サポートは vSphere リリースによって異なります。vSphere 5.5 U3 および vSphere 6.0 より前のリリースは、USB 3.0 をサポートしないため、RBSU 内の USB 3.0 設定は **[Auto]** または **[Disable]** に構成される必要があります。
- a. RBSU が開いていない場合は、RBSU を開きます。
 - b. 下方向にスクロールして **[システムオプション]** を選択し、**[Enter]** キーを押します。
 - c. 下方向にスクロールして **[USB オプション]** を選択し、**[Enter]** キーを押します。
 - d. 下方向にスクロールして **[USB 3.0 モード]** を選択し、**[Enter]** キーを押します。次の画面で、**[自動]** または **[無効]** を選択し、**[Enter]** キーを押します。
 - e. 構成変更を保存して終了します。サーバーが再起動します。
10. vSphere 5.5 U3 および vSphere 6.0 以降は USB 3.0 をサポートし、RBSU 内で USB 3.0 を有効にできます。USB 3.0 デバイスをサポートするには、RBSU 内で USB 3.0 設定を有効にします。
- a. RBSU が開いていない場合は、RBSU を開きます。
 - b. 下方向にスクロールして **[システムオプション]** を選択し、**[Enter]** キーを押します。
 - c. 下方向にスクロールして **[USB オプション]** を選択し、**[Enter]** キーを押します。
 - d. 下方向にスクロールして **[USB 3.0 Mode]** を選択し、**[Enter]** キーを押します。次の画面で、**[有効]** を選択し、**[Enter]** キーを押します。
 - e. 構成変更を保存して終了します。サーバーが再起動します。
11. UEFI ブートをサポートするサーバーの UEFI セキュアブートを無効にします。これはデフォルトで無効になっています。VMware ESXi は、UEFI セキュアブートをサポートしません。
- a. RBSU が開いていない場合は、**RBSU** を開きます。
 - b. 下方向にスクロールして **[サーバーセキュリティ]** を選択し、**[Enter]** キーを押します。
 - c. 下方向にスクロールして **[セキュアブート構成]** を選択し、**[Enter]** キーを押します。
下方向にスクロールして **[セキュアブート強制]** を選択し、**[Enter]** キーを押します。
 - d. 次の画面で、**[無効]** を選択し、**[Enter]** キーを押します。
 - e. 構成変更を保存して終了します。サーバーが再起動します。
12. デフォルト電源プロファイル（オプション）を変更します。
- RBSU で HP 最大電源プロファイル設定を選択すると、トラフィックが多い状況で仮想マシンの I/O パフォーマンスが強化されます。ただし、この設定ではプラットフォームの消費電力も最大になります。電源プロファイルの選択では、構成が必要かどうかを判断してください。
- a. RBSU が開いていない場合は、RBSU を開きます。
 - b. **[電力管理オプション]** を選択します。
 - c. **[HP 電力プロファイル]** を選択します。

- d. **[最大パフォーマンス]**を選択します。

注記: 古いサーバーモデルでは、**[最大パフォーマンス]**ではなく**[HP スタティックハイパフォーマンスモード]**用のオプションが表示される場合があります。その場合は、該当するオプションを選択します。新しいプラットフォームの**[最大パフォーマンス]**電源プロファイルは、この設定以外の設定も含まれます。

- e. 構成変更を保存して終了します。サーバーが再起動します。

13. iLO 2、iLO 3、または iLO 4 ネットワークのパラメーター、ディレクトリ設定、グローバル設定、およびユーザーアカウントを構成するには、以下の手順に従ってください。

- a. サーバーを起動します。

Gen8 の場合、以下の手順に従ってください。

- 1) **[F8]** キーを押して iLO 構成ユーティリティを開きます。

Gen9 の場合、以下の手順に従ってください。

- 1) **[F9]** キーを押します。

- 2) スクロールして iLO4 構成ユーティリティを選択し、**[Enter]** キーを押します。

詳しくは、『HP Integrated Lights-Out 2 ユーザーガイド』、『HP Integrated Lights-Out 3 ユーザーガイド』、または『HP Integrated Lights-Out 4 ユーザーガイド』を参照してください。

14. ローカルストレージを使用して Smart アレイコントローラー用に論理ドライブを作成、表示、または削除するには、以下の手順に従ってください。

- a. サーバーを起動します。

- b. Gen8 の場合、**F8** キーを押します。

- c. Gen9 の場合、**[F9]** キーを押します。

- 1) スクロールして **[Smart Array controller]** を選択し、**[Enter]** キーを押します。

- 2) スクロールして **[HP Smart Storage Administrator (HP SSA)]** を選択し、**[Enter]** キーを押します。

詳しくは、『HP Smart アレイコントローラーでのアレイの構成リファレンスガイド』を参照してください。

15. HP Dynamic Smart アレイを使用せずに ROM ベースセットアップユーティリティ (RBSU) で無効にするには、以下の手順に従ってください。

- a. RBSU が開いていない場合は、**RBSU** を開きます。

- b. SAS の場合は、**[システムオプション]** に移動して **[HP Smart アレイ B320i RAID 構成]** を選択し、**[無効]** に変更します。

- c. SATA の場合は、**[システムオプション]** に移動して **[SATA コントローラーオプション]** を選択し、**[内蔵 SATA 構成]** に移動して **[SATA AHCI サポートを有効]** に変更します。

4 インストール

ソフトウェアイメージのその場でのインストール手順

1. インストール用 CD を CD-ROM ドライブに挿入し、サーバーを起動します。
2. 画面の指示に従って、インストールを完了します。

iLO 2、iLO 3、または iLO 4 を使用したソフトウェアイメージのリモートでのインストール手順

iLO 2 を使用したソフトウェアイメージのリモートでのインストール手順

サーバーに仮想メディアを使用するための正しい iLO 2 ライセンスが適用されていることを確認します。

HP Blade System c-Class サーバースレードには、仮想メディアのライセンスが付属しています。c-Class 以外のサーバーでは、別売りの HP iLO 2 Advanced Pack ライセンスが必要です。詳しくは、HP 製品販売店にお問い合わせください。

次の手順により、iLO 2 を使用してソフトウェアイメージをリモートでのインストールできます。

1. 仮想メディアを使用する
2. リモートコンソールを使用する

仮想メディア

1. ローカルマシン上で Web ブラウザーを開き、iLO 固有の IP アドレスと認証情報を入力して iLO 2 にログインします。
2. **[仮想メディア]** タブを選択して、**[仮想メディアアプレット]** を選択します。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - a. ローカルメディアドライブ – 手順 4 に進みます。
 - b. ローカルイメージファイル – 手順 5 に進みます。
4.
 - a. **[仮想 CD/DVD-ROM]** セクションにある **[ローカルメディアドライブ]** を選択します。
 - b. テキストボックスにイメージ (ISO ファイル) のパス名またはファイル名を入力するか、**[一覧]** をクリックしてイメージファイルを見つけます。
 - c. **[接続]** をクリックします。接続されたドライブのアイコンが緑色に変わります。
5.
 - a. **[仮想 CD/DVD-ROM]** セクションにある **[ローカルイメージファイル]** を選択します。
 - b. テキストボックスにイメージ (ISO ファイル) のパス名またはファイル名を入力するか、**[一覧]** をクリックしてイメージファイルを見つけます。
 - c. **[接続]** をクリックします。接続されたドライブのアイコンが緑色に変わります。
6. インストールを完了するには、インストール用 CD が表示する各プロンプトに従います。復元 (復旧) を行う場合は、インストールが完了した後、バックアップファイルからデータを復元してください。
7. インストール後に **[仮想メディアアプレット]** に移動し、**[仮想 CD/DVD-ROM]** セクションにある **[切断]** をクリックします。接続されたドライブのアイコンが赤色に変わります。
8. (オプション) このサーバーを検出して管理するには、HP SIM または HP Insight Control for VMware vCenter Server を構成します。ProLiant サーバー上での VMware ESXi と vSphere 仮想化環境のホスティングと管理について詳しくは、HP の Web サイト <http://www.hp.com/go/VMware> (英語) を参照してください。

リモートコンソール

1. ローカルマシン上で Web ブラウザーを開き、iLO 固有の IP アドレスと認証情報を入力して iLO 2 にログインします。

2. **[仮想メディア]**を選択します。
3. 次のいずれかのオプションをクリックします。
 - 統合リモートコンソール
 - 統合リモートコンソール（フルスクリーン）
 - リモートコンソール
 - リモートシリアルコンソール
4. **[仮想メディア]**タブを選択して、**[イメージ]**の横にある**[マウント]**をクリックします。
5. テキストボックスにイメージ（ISO ファイル）のパス名またはファイル名を入力するか、ファイルを参照してイメージファイルを見つけます。
6. インストールを完了するには、インストール用 CD が表示する各プロンプトに従います。復元（復旧）を行う場合は、インストールが完了した後、バックアップファイルからデータを復元してください。
7. インストール後に **[仮想メディア]**に移動し、**[アンマウント]**をクリックします。

ilo 3 および ilo 4 を使用したソフトウェアイメージのリモートでのインストール手順

1. サーバーに仮想メディアを使用するための正しい ilo 3 または ilo 4 ライセンスが適用されていることを確認したあと、ローカルマシン上で Web ブラウザーを開き、ilo 固有の IP アドレスを入力して ilo 3 または ilo 4 にログインします。
 HP Blade System c-Class サーバードライブには、仮想メディアのライセンスが付属しています。c-Class 以外のサーバーでは、別売りの HP ilo 3 または ilo 4 Advanced Pack ライセンスが必要です。詳しくは、HP 製品販売店にお問い合わせください。
2. 左側のナビゲーション画面の **[リモートコンソール]**を展開し、**[リモートコンソール]**を選択します。**[統合リモートコンソール]**の **[起動]**を選択するか、**[Java 統合リモートコンソール]**の **[起動]**を選択して Java アプレットベースのコンソールからシステム KVM にアクセスします。
3. **[アプリケーションの実行 – セキュリティ警告]**ダイアログボックスが表示される場合は、**[実行]**をクリックして統合リモートコンソールをダウンロードします。
4. ISO イメージファイルをマウントします。
 - ilo 4 Java または ilo3 および ilo 4 の**統合リモートコンソールの場合**：**[仮想メディア]**メニューに移動し、**[イメージファイル CD-ROM/DVD]** チェックボックスを選択して、テキストボックスにイメージ（ISO ファイル）のパス名またはファイル名を入力するかファイルを参照してイメージファイルを見つけ、**[開く]**をクリックしてファイルをマウントします。
 - ilo3 の **Java 統合リモートコンソールの場合**：**[仮想ドライブ]**メニューから **[CD/DVD]** に移動し、**[仮想イメージ]**を選択するか「D:」（イメージが CD/DVD に焼き付けられている場合）を選択して、テキストボックスにイメージ（ISO ファイル）のパス名またはファイル名を入力するかファイルを参照してイメージファイルを見つけ、**[開く]**をクリックしてファイルをマウントします。
5. インストールを完了するには、インストール用 CD が表示する各プロンプトに従います。復元（復旧）を行う場合は、インストールが完了した後、バックアップファイルからデータを復元してください。
6. インストール後に、次の手順を実行します。
 - ilo 4 Java または ilo3 および ilo 4 の**統合リモートコンソールの場合**：**[仮想ドライブ]**メニューに移動し、**[イメージファイル CD-ROM/DVD]** チェックボックスの選択を解除します。
 - ilo3 の **Java 統合リモートコンソールの場合**：**[仮想ドライブ]**メニューから **[CD/DVD]** に移動し、**[仮想イメージ]**の選択を解除するか「D:」の選択を解除します。

VMware および仮想化環境のセットアップについて詳しくは、VMware の Web サイト <http://www.vmware.com/products/vi/esx/> を参照してください。

vSphere 5.x、6.x の展開について詳しくは、Web サイト <http://h20195.www2.hp.com/V2/GetDocument.aspx?docname=4AA4-7994ENW&cc=us&lc=en> (英語) の『Deploying and updating VMware vSphere on HP ProLiant Servers』を参照してください。

5 Standalone ライセンスの有効化

HP または VMware 社から ESXi と vSphere イメージをダウンロードした場合、インストール用 ISO には、試用シリアル番号が含まれます。永続ライセンスのシリアル番号を取得するには、以下の手順に従ってください。

1. VMware 社の Web サイト <https://www.vmware.com/tryvmware/> で登録を行います。
2. シリアル番号をダウンロードします。
3. vSphere Client を使用して、ライセンスシリアル番号を追加します。

6 完全ライセンスへのアップグレード

VMware vSphere Essentials、Essentials Plus、Standard、Enterprise、または Enterprise Plus またはそれぞれのアクセラレーションキットのライセンスを購入する場合は、パッケージに含まれる手順書の指示に従って、ライセンスを取得し、適用してください。

7 VMware ESXi と vSphere 5.X および 6.X の更新

VMware ESXi と vSphere のアップデート版およびパッチは、VMware 社が提供および配布します。これらのアップデートとパッチには、VMware 社の最新の ESXi と vSphere ソフトウェアが含まれます。HP 付加価値コンポーネントのアップデートは HP から提供され、HP のオンラインデポ <http://vibsdepot.hp.com>（英語）から入手できます。

このアップデート版とパッチは、VMware Update Manager (VUM) により配布およびインストールされます。このプロセスについては、『VUM Administration Guide』（http://pubs.vmware.com/vsphere-50/topic/com.vmware.vsphere.update_manager.doc_50/GUID-F7191592-048B-40C7-A610-CFEE6A790AB0.html）を参照してください。

8 システム障害からの復旧

システム障害が発生し、ソフトウェアの再インストールが必要な場合は、「インストール」(12 ページ) を参照してください。

- ① **重要:** インストール用 CD を使用すると、既存のデータおよびユーザー構成はすべて消去されます。以前に指定した設定値、ユーザーデータ、およびライセンス情報はすべて失われます。このため、ソフトウェアの再インストール後、ライセンスを適用しなおす必要があります。
-